

未来をつくる子ども・若者応援事業

「未来をつくるユース会議」
2019—2022

実施報告書



未来をつくる子ども・若者応援事業について

愛知県では、子ども・若者が健やかに成長し、夢や希望を持って自立・活躍できる社会を実現するため、「子ども・若者育成支援推進法」に基づく「都道府県子ども・若者計画」として、2018年8月に「あいち子ども・若者育成計画2022」を策定し、本計画に基づき様々な取組を展開しています。

本計画では、「未来をつくる子ども・若者の活躍促進」を施策目標の一つとして掲げ、愛知の子ども・若者が未来に向かって、夢や希望を持って前進できるよう、活躍を後押しする社会づくりを目指しています。

その取組の一環として、未来を担う子ども・若者が、社会問題について考え、社会参画に繋がる機会をつくることを目的として、「未来をつくる子ども・若者応援事業」を計画し、本事業において2019年度から4年間「未来をつくるユース会議」を開催しました。

2023年3月末で「あいち子ども・若者育成計画2022」の計画期間が終了することから、4年間の「未来をつくるユース会議」の提言内容と、これまでファシリテーターとして御協力いただいた先生方からのメッセージを、報告書にまとめました。

目 次

| | | |
|---|------------------|----|
| 1 | 開催概要 | 2 |
| 2 | 2019年度ユース会議報告 | 3 |
| 3 | 2020年度ユース会議報告 | 5 |
| 4 | 2021年度ユース会議報告 | 7 |
| 5 | 2022年度ユース会議報告 | 9 |
| 6 | ファシリテーターからのメッセージ | 11 |

1 開催概要

○2019年度

テーマ：「相談上手になるために～みんなで話し合おう！～」

ファシリテーター：岡崎女子大学 花田経子講師

【尾張会場】2019年7月26日（金）南山高等学校女子部

【三河会場】2019年7月12日（金）桜丘高等学校



○2020年度

テーマ：「グローバル社会で活躍するために」

ファシリテーター：名古屋国際工科専門職大学 佐藤久美教授

【尾張会場】2020年12月19日（土）名城大学附属高等学校

【三河会場】2021年 3月15日（月）岡崎城西高等学校



○2021年度

テーマ：「若者が社会貢献活動に気軽に参加するために」

ファシリテーター：愛知教育大学 西尾圭一郎准教授

【尾張会場】2021年7月20日（火）愛知高等学校

【三河会場】2021年7月28日（水）豊川高等学校



○2022年度

テーマ：「子ども・若者が活躍できる社会の実現」

ファシリテーター：愛知大学 鈴木誠教授

【尾張会場】2022年7月26日（火）愛知県立瑞陵高等学校

【三河会場】2022年8月 2日（火）愛知県立豊橋南高等学校



2 2019年度ユース会議報告

テーマ：「相談上手になるために～みんなで話し合おう！～」

岡崎女子大学の花田経子（はなだきょうこ）講師をファシリテーターにお迎えし、学校・交友関係の悩み事やSNSに起因したトラブル等の困難な状況を乗り越えるために、「相談したいのに大人に相談できないのはなぜだろう」「相談上手になるためにはどうしたらいいのだろう」など、相談する側・相談される側への提言をグループごとにまとめました。

【尾張会場】南山高等学校女子部 参加人数38名（6校）

| 提言内容 テーマ①相談しやすいためには大人がどうあるべきか | |
|-------------------------------|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 父母よ、SNSを知ってくれ ・ 否定しないでまず聞いてくれ |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 頭ごなしに怒ったり否定しないでほしい！ ・ 私たちにしっかり向き合って、私たちのスマホの世界を「知ろう」としてほしい！ |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・ 怒らないで ・ SNSについて勉強して |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大人にはこちらのことを考えて冷静になってほしい！ |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・ スマホへの偏見はなくして！ ・ 過去をしからず、今と未来と一緒に考えて！ |
| F | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大人は子どもとの距離を大切に怒る前にスマホの知識を増やしてほしい！ |
| G | <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS勉強してください ・ 怒らないでください ・ 偏見しないでください ・ 話を最後まで聞いてください |
| 提言内容 テーマ②相談上手になるために私たちができること | |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談する側：簡潔に、明確に、意思を持って ・ 相談される側：客観的に、対等に、笑顔で |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談する側もされる側も相手の気持ちをしっかり考える!! |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談する側：状況を見てまとめて話す ・ 相談される側：話を良く聞いて肯定する |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談するときには、内容をまとめる、良い雰囲気作り、追い込みすぎない！ |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・ 選ぶ |
| F | <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段からのコミュニケーションを大切に、相談できる人を選ぶ ・ 自分の意見を大切にする |
| G | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相互関係 ・ 相談する側：大事になる前に言う、普段から関係を築く、相談するタイミング、感謝 ・ 相談される側：意見を押しやさない、冷静に聞く、他事しない、共感 |

【三河会場】桜丘高等学校 参加人数39名（4校）

| 提言内容 テーマ①相談しやすいためには大人がどうあるべきか | |
|-------------------------------|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・大人はSNSへの理解を深めてほしい ・大人の威圧的な態度をなくしてほしい |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・話を最後まで聞いて!! ・大人の人達ネット & SNSの知識を増やして!! ・同じ目線・立場で聞いてから大人の立場としての意見・アドバイスをください!! |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの目線に立つ為にSNSの理解を深めて! |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・SNS理解 子どものことをもっと見てほしい |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・SNSへの理解を深めて!! ・最後まで話を聞いて!! |
| F | <ul style="list-style-type: none"> ・大人は同じ目線で寄り添って最後まで話しを聞いて欲しい |
| G | <ul style="list-style-type: none"> ・大人にはSNSのトラブルを理解して欲しい |
| 提言内容 テーマ②相談上手になるために私たちができること | |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・タイミングを大切に |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・雑談から入って本題の話をする ・要点をまとめて分かりやすく話す ・相手の話を最後まで聞いてあげて! ・相手の話に共感して相談にのる |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・相手を気遣って相談する |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から人のことを考え聞くときは共感する |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・タイミングや相手の都合を考える ・話しやすい状況、相手を作る |
| F | <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、タイミングを測って軽い感じで相談する |
| G | <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは車の中で相談した |



3 2020年度ユース会議報告

テーマ：「グローバル社会で活躍するために」

名古屋国際工科専門職大学の佐藤久美（さとうくみ）教授をファシリテーターにお迎えし、SDGsの達成に向けて若者にグローバルな視点での取組が求められている中、「海外や異文化への関心が低いのはなぜか」「グローバル人材になるためにはどうしたらいいか」など、グローバル社会で活躍するための提言をグループごとにまとめました。

【尾張会場】名城大学附属高等学校 参加人数43名（2校）

| | アジェンダ | 提言内容 |
|---|---|--|
| A |  <p>2. 飢餓をゼロに 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を推進するとともに、持続可能な農業を推進する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「table for two」という仕組みを利用し、双方の課題を解決する |
| B |  <p>15. 陸の豊かさも守ろう 陸域生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対策、生物多様性の喪失の防止を図る</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・土地に木を植えたい人（企業・高齢者）×働きたい人（若者）をマッチングするアプリの開発 |
| C |  <p>4. 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の子どもにZoomを活用した教育 |
| D |  <p>4. 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日本に住む外国人児童・生徒の宿題支援を行う |
| E |  <p>5. ジェンダー平等を實現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女性のエンパワーメントを図る</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校からジェンダー不平等をなくしていく |
| F |  <p>14. 海の豊かさも守ろう 海洋と沿岸資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・海の生態系を守る！漁業従事者の雇用を守る！ ・観光資源としての海の価値を高める！ |
| G |  <p>4. 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士が授業をするしくみをつくる |
| H |  <p>17. パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・企業と学生をつなぐ（SNSで学生の優秀なアイデアを採用し、企業が実行する） |
| I |       | <ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレード（公平・公正な貿易）について、教育現場において知る機会をつくる |

【三河会場】岡崎城西高等学校 参加人数36名（1校）

※新型コロナウイルス感染症の影響により、計画を変更して実施

| | アジェンダ | 提言内容 |
|---|---|--|
| A |  <p>8. 働きがいも経済成長も すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークの機会をいかなる人種も性別もを促進する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックインカムを導入 |
| B |  <p>4. 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い授業のオンライン化 |
| C |  <p>15. 陸の豊かさも守ろう 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対策、生物多様性の損失を防止し、生態系を回復し、持続可能な利用の促進を図る</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・先進国の支援で発展途上国の森林を守る |
| D |  <p>5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と男性のエンパワーメントを図る</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・過去と現在の価値観のギャップを若者が埋める取組 |
| E |  <p>14. 海の豊かさも守ろう 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・海洋汚染を防ぐために、小さな事でも自分たちができることをやり続ける |
| F |  <p>10. 人や国の不平等をなくそう 国内および国家間の格差を是正する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー、宗教、障がいの有無などの差別 →互いに理解し、尊重することでなくしていける |
| G |  <p>5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と男性のエンパワーメントを図る</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・LGBTの人達をもっと声を上げられる社会を目指す |



4 2021年度ユース会議報告

テーマ：「若者が社会貢献活動に気軽に参加するために」

愛知教育大学の西尾圭一郎（にしおけいいちろう）准教授をファシリテーターにお迎えし、実際にボランティアなどの社会貢献活動を経験したことがない若者が多い現状から、「若者の社会貢献が実現できていないのはなぜか」「社会貢献活動を盛んにするため、私たちにできることは何か」など、社会貢献に対する若者の提言をグループごとにまとめました。

【尾張会場】愛知高等学校 参加人数95名（6校）

| | 提言内容 |
|---|--|
| A | 学校との連携「1 year 社会貢献プログラム」 ・1年を通してプロジェクトを行うことで、知識の積み重ねや深く社会問題を知ることができる |
| B | 若者が地域のイベントを主催 ・大人が行うというイメージを若者が主催することで身近に |
| C | SNSで発信する ・活動している人達から知らない人に近づいていく ・人任せにしない |
| D | 地域でイベントを開催する ・自分たちが地域の行事を企画したり、実施することでよりよい社会をつくることできる |
| E | 一人一人の積み重ねが大切だと認識を変える ・具体的に例を挙げ、自分一人でも簡単にできる社会貢献活動があることを知ってもらう |
| F | 意識を変え、人に言われてではなく自分から ・高校生が学び、高校生の言葉で小学生に教える ・地域みんなが楽しくできる活動を企画する |
| G | 差別 ⇒昔の価値観を持つ人に若者が情報発信 環境 ⇒マイ〇〇を利用、利用者にメリットを 経済 ⇒募金やフェアトレードなど情報を広める |
| H | 学校のあり方を変える ・学校の中で情報がもっと得られるようになれば、若者の意識は劇的に変わると思う |
| I | 社会貢献⇒未来への投資（自分にもメリット） ・小さな、身近な活動から、参加者の輪を広げていけば社会的に大きなムーブメントに ・まずは若者の一員である私たちがアンテナを高くし、興味を持つことが大切 |
| J | 課題をクリアして社会貢献の機会を設ける お金をかけない ⇒分別、節水などできることを 身近にする ⇒家族、地域、仲間で主催する プラスになる ⇒就職や入試に活かせる社会に あたりまえに ⇒小さい頃から社会貢献活動を |
| K | 「流行」～若者の感情を考えた情報発信～ ・若い人は流行に敏感、かっこいいからまねしてみようと思えるような発信の仕方が大事 |
| L | 考えることが大切 ・大きなテーマも、考えること ・多くの人が共有し、発展させることが社会貢献に繋がる |
| M | フードロスについて討論 ・賞味期限の近いもの、地産地消、あらかじめ買うものを決めて買い物、ローリングストック |
| N | SNSを利用して情報発信 ・若い人はやってみないとわからない、学校を体験の機会とする ・学校と社会との協力が必要 |

【尾張会場】

| | 提言内容 |
|---|---|
| O | 気付いたら社会貢献している世界を目指す ・食品ロスやゴミの分別について討論 ・当たり前であればそれが社会貢献になる社会を目指す |
| P | 社会貢献の意味を認知 ⇒SNSを活用 参加しづらい ⇒学校で授業や道徳に取り入れる 機会が少ない ⇒学校行事や、掲示板を利用する |

【三河会場】 豊川高等学校 参加人数50名（8校）

| | 提言内容 |
|---|---|
| A | 高校生自身が主体となって活動 ・自分たちで広告をつくったり動画を作り、SNSも利用して情報発信 ・活動の楽しさをアピール |
| B | 高校生から小中学生へ伝える・つながる ・堅いイメージをSNSや学校の掲示板を利用することで身近なものに ・学校の学びを活動につなげる |
| C | 時間がない ⇒学校など身近な場所に回収ボックスを設置する活動などは時間がなくてもできる 興味・知識がない ⇒学校全体で活動する |
| D | 高校生のボランティアサークルをつくる！ ・他の高校とも合同で活動、仲間が増え、同世代の交流が増えれば話題となり、認知度が上がる |
| E | 時間がない ⇒既に行っている身近な活動に参加 情報がない ⇒大切さ・内容を若者が若者に伝える、経験者が迷っている人の背中を押してあげよう |
| F | 若者に興味をもってもらうには ・高校生の生活の中心は学校、学校生活に社会貢献活動を加え、「すごい」を「当たり前」に変えていく |
| G | 地域の活性化～若者が積極的に地域に関わる ・地域の活動を音楽フェス、スポーツやアニメイベントなどと組み合わせ、楽しく活動 |
| H | 知識の共有～若者から若者へ伝える機会を ・ユース会議のようにグループ活動ができる機会を若者自身がつくる ・同世代や下の世代につなぐ |
| I | 社会貢献の堅苦しさをなくす 若者が情報を発信することで、若者から全世代へ幅が広がっていき、参加者が増える！ |



5 2022年度ユース会議報告

テーマ：「子ども・若者が活躍できる社会の実現」

愛知大学の鈴木誠（すずきまこと）教授をファシリテーターにお迎えし、活躍したいと考えていても、様々な理由から実際に行動に移したことがない子ども・若者が多いことから、「将来はどのような分野で活躍したいか」「社会で活躍する頃に地域や世界で活躍することを阻む理由は何か」「10年後はどのような地域や世界になってほしいか」の3つをキーワードに、若者の提言をグループごとにまとめました。

【尾張会場】愛知県立瑞陵高等学校 参加人数30名（9校）

| 提言内容 テーマ①将来はどのような分野で活躍したいか | |
|--|---|
| A | 社会が抱える問題と対応スキル ・将来活躍するために必要なスキル 【理解力】【実行力】【主体性】【柔軟性】 ・自分自身が率先して行動→一人一人の行動が社会の問題を解決する |
| B | 私たちの未来 ・将来活躍したい分野は異なっても、共通してやるべきこと 【夢や目標を高く持つ】【人間性を磨く】【最後まで諦めない】 ・現状に満足せず努力を続けることが、私たちが未来で輝くためのポリシー |
| C | どのようなスキルを身に付けたいか ・意識（向上心や情報発信力）と知識（努力して身に付けるもの）の2種類 ・私たちの意識や考えを変える力を身に付ける →そのためには若者が社会について考える余裕がある環境を作る ・若者の意識を変えるためには情報を発信する力がとても大事 |
| 提言内容 テーマ②社会で活躍する頃に地域や世界で活躍することを阻む理由は何か | |
| E | 活躍することを阻む理由と解決策 ・IT化：ソーシャルイノベーションにより仕事が減少 →ロボットと共存していくことが大切 ・言葉や宗教の壁：学校で英語しか学んでいないため英語圏以外の活躍を阻害 →小中高のカリキュラムを見直し多言語学習実施 価値観の違いを互いに認め合い尊重 ・地球温暖化：海面上昇により食糧危機 →CO2削減、SDGsについて一人一人が行動 |
| 提言内容 テーマ③10年後はどのような地域や世界になってほしいか | |
| D | 私たちのできる事 ・互いに認め合える3つの社会に!! ①他人の意見が反映される社会→選挙や政治に関心を持つ ②人との関わりがとれる社会→ボランティア活動や地域行事への参加 ③世界とつながる社会→留学や旅行等で異文化に関わり世界を身近に考える |
| F | 10年後の世界の問題点 ・SDGs、デジタル、金融、地域、コミュニケーションなど様々な問題 ・問題解決のために将来に向けて私たちが成すべきこと 【柔軟な考え方を持つ】【自己解決能力を養う】【多角的な物事の捉え方をする】 |
| G | 10年後の地域や世界 ・食糧問題について、私たちが様々なアプローチを実践し、家族や職場等で共有することで少しずつ未来を変える 【食料循環】【捨てる物を有効活用】【フードロス対策】【適量生産】 |

【三河会場】 愛知県立豊橋南高等学校 参加人数25名（8校）

| 提言内容 テーマ①将来はどのような分野で活躍したいか | |
|--|--|
| A | <p>魅力的な豊橋へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊橋市が活性化すると周辺の豊川市や田原市などにも活性化の伝播が起こる 【全世代が住みよい豊橋】【バスの本数増便】【遊ぶ場所の増加】【既存施設の活用】 ・個人でできることは少ないが私たちが身近な地域を変えていくことが第一歩 |
| B | <p>children dreams</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが描いた将来をどうしたら実現できるか 【教師】【ゲームクリエイター】【建築士】【海外勤務】 ・夢は待っていれば叶うものではなく、自分から動き、目的を持って日々生活を送る |
| C | <p>お金が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識や学力等の個人の資質向上や、ユニバーサルデザイン等の施設の設置にお金が必要 ・お金がなくてもできることが地域への貢献につながる 【ボランティア】【ルール遵守で犯罪・事故減少】【多文化・他者を理解】 |
| 提言内容 テーマ②社会で活躍する頃に地域や世界で活躍することを阻む理由は何か | |
| D | <p>すぐのできることから積極的に!!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境、ジェンダー問題、少子高齢化について私たちにできることとできないこと できる→SDGsの活動に協力する、偏見をなくす、国の活動に目を向ける できない→地震等の災害対策、多目的トイレの設置、子育て支援 ・身近にあることから積極的に日々取り組む |
| E | <p>私たちの活躍を阻むもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偏見、お金、風潮、文化、社会 【正しく情報収集】【国や地域の違いを理解】【選挙に参加】【教育に社会全体で協力】 ・解決策→自ら動き、自ら学ぶ姿勢を見せ、勇気を出すことが必要 |
| 提言内容 テーマ③10年後はどのような地域や世界になってほしいか | |
| F | <p>SDGs（地球の未来）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別、環境問題、ユニバーサルデザイン、自動化、災害 【差別がなければ戦争は起きない】【自動化により労働環境向上】 ・自分だけが動くのではなく、皆で協力することで世界を変えることができる |
| G | <p>日本を明るく!!～私たちにできること～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境、交通、社会、平和について個人ができることと国や企業ができること 個人→エコバッグ使用、交通ルール遵守、選挙への参加、平和活動への参加 国や企業→環境に優しい製品、道路整備、地域の活性化、原爆被爆国としての発信 ・私たちにでもできることが沢山ありそれを実行する一つ一つが未来につながる |



6 ファシリテーターからのメッセージ

花田経子先生（2019年度：岡崎女子大学）

2019年の最初の会議においてファシリテータを務めさせていただきました。私自身は子どもたちの情報モラルや情報セキュリティに関係した問題を日頃研究していましたので、2019年の会議ではSNSといった若者にとっては欠かせない存在をテーマとして、大人と若者の価値観の相違をどのように埋めていくのが望ましいのかを議論しました。会議に参加していただいた中学生・高校生の皆さんが、SNSという現代のツールを通じて大人をどのように見ているのかがとてもはっきりと明示化され、大人の一人として若者にどのように関わっていくのが望ましいのかを痛感させられました。

あれから4年が経ち、新型コロナウイルス感染症の影響で社会はより一層SNSと密接な関係を持たざるを得なくなりました。SNSの使い方を若者だけではなく全世代の人たちが理解し、正しいリテラシーを持つことが今や強く求められています。会議の中では、「相談する力」「困ったときに頼れるコミュニケーション能力」の大切さが何度も指摘されました。シンポジウムでも自分自身を理解し、自分の周りにいる大切な人たちを理解し、その上で丁寧にコミュニケーションをとっていくことの大切さが指摘されました。今の不確実な時代だからこそ、恐れずに他者と丁寧にコミュニケーションをとることが大切だと考えています。



佐藤久美先生（2020年度：名古屋国際工科専門職大学）

Broaden Your Horizons!

SDGs (Sustainable Development Goals)は 2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択されて以来、世界各国で広がりを見せています。それぞれの国、地域の特有の課題を解決するために取り組んでいます。日本の各自治体はSDGsを原動力として地方創生の推進をしていますし、各企業は、例えば、食品製造企業がフードロスの削減のための仕組みを作ったり、化粧品会社がジェンダーフリーの取り組みを進めるなどして、企業戦略としています。

ソーシャルイノベーション（社会変革）が求められているのです。SDGsに掲げられている環境問題や貧困問題などの社会課題を解決するためのスタートアップ企業による参画も増えています。先進的な技術（テクノロジー）やアイデアを強みに、ゼロから市場やビジネスモデル創出に挑戦するスタートアップを愛知県も支援しています。若い皆さんの柔軟な発想が期待されています。

SDGsの合言葉である「誰一人取り残さない社会」の実現に向けて、国境や言語を超えてアイデアを出し合ってみてはいかがでしょうか。相互理解と連帯が生まれ、争いのない社会も実現できるに違いありません。私たちが応援しています。

Broaden your horizons and good luck for your bright future!!



西尾圭一郎先生（2021年度：愛知教育大学）

愛知県人は地元愛が強いと言われます。それは今回「未来をつくるユース会議」に携わることで、より強く認識しました。そうした自分たちの地域をより良くしていこう、という心意気を意識すること、それに向けた活動をする、それがこれからの世の中に求められている力を付けることになると思います。

私が日頃、教育活動の拠点としている西三河では、外国人が多く住んでおり、児童の7割が外国人という小学校が近くにあるくらい、多様な住民で構成された地域です。そうした状況は、社会にとっては多文化共生の実現というチャレンジを行う場と感じられることもありますが、地域に住む若者たちは、多文化共生を意識することなく、常に目の前にあることとして生活しています。そうした日々の暮らしと、そこでの学習・活動は、この先の日本にとっても非常に重要な経験の蓄積を知らず知らずのうちにしています。

そういう意味で愛知県の若者は得難い環境の中で暮らし、日々、将来の日本に必要な経験を得ていると思います。ですので若い人々には、特に日々の何気ない生活を漫然と過ごすのではなく、将来のための経験だと意識しながら、過ごして欲しいと思っています。今回の「未来をつくるユース会議」での活動が、そうした意識への気づきをもたらすことが出来たら、これに勝るものはありません。皆さんの将来の活躍を期待しています。



鈴木誠先生（2022年度：愛知大学）

今回の「未来をつくるユース会議」に登壇してくれた高校生の皆さんから希望をいただいたのは、私たち大人世代である。尾張会場、三河会場で行ったワークショップで見聞きした高校生の主張に対して、私たち大人世代が発した言葉は一様に「すごいね」「頼もしいな」「高校生は愛知の未来を探る立派な仲間だ」等々であった。これほど高校生の皆さんを頼もしい存在と感じたことはなかった。そのことに気づかされたユース会議でもあった。高校生の主張は漠然と社会に対する期待や要望ではなく、学校での学修やネット情報を自分なりに咀嚼し、自分の言葉に置き換えて、自ら取り組む課題、社会に参加し同世代・異世代・世界の人々と連携し行動すべきことを堂々と主張してくれた。その姿に私たちは敬意を抱かずにはいられなかったというのが正直な感想である。

近年、私たちは、ようやく若者の参加を得て、起業対策・子育て支援・介護問題・地球温暖化対策・差別の解消など社会問題の解決策を語り合うようにはなった。しかし、国際レベル・国家レベル・都道府県レベルの公共的課題や政策形成を議論する場に高校生の姿を見ることはまだ少ないように思う。若者に未来を託すのなら、若者と協働して社会問題の解決策を議論し、政策形成と実践に取り組まなくてはならないであろう。今年度のユース会議に参加した高校生は、来年度から仕事に就き、夢の実現に向かいたいと語ってくれた若者がいた。また、大学・短大・専門学校でさらに学び卒業後に夢の実現に努力すると宣言してくれた若者もいた。いろんな夢や希望を語る若者たちと手を携えてともに未来を創る努力を、私たち大人世代は決して忘れてはならない。



未来をつくる子ども・若者応援事業
「未来をつくるユース会議」2019－2022
実施報告書

2023年3月

愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話：052-954-6175（ダイヤルイン） FAX：052-971-8736
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/syakaikatsudo/>

